



令和8年7月17日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
5年 学年便り 夏休み号

はばたくための準備

「5年生になったばっかはみんな“ビー玉”のためにやっていたと思いましたが、最近は自分のために、みんなのためにやってくれている子が増えているんじゃないかと思います」

先日、ある子の日記にこのようなことが書かれてました。学級の仲間が、よりよい学級になるために“自分”から動き出していることを嬉しく感じている内容でした。新しい仲間との出会い、そして高学年として先輩になった4月から3カ月が経ちました。今では、新しい環境に慣れ、よりよく生活できるように考えて行動したり、グル活では先輩としての関わりを4年生にして、よいキャンプが迎えられるように4年生に働きかけたりしています。

先日は、トイレ掃除で水道のハンドソープ入れが壊れているのを知った子たちが、「帰りの会にお知らせに行っていていいですか？」とそれぞれの学級担任へ依頼に行きました。そして、帰りの会で「ハンドソープの中の部分が壊れてしまいました。そういうことはしないで欲しいので、気をつけてください」というように呼びかけに回りました。掃除で担当しているという責任感、そして皆が気持ちよく手洗い場を使ってほしいと感じたことがきっかけで動き出した行動でした。また、水曜日のロング昼休みに教室を自主的に掃除している子もいます。きっと、掃除の無い日の5時間目に自分もみんなも気持ちよく授業に取り組めるようにと考えているのでしょう。このような姿は、はばたきの子ども一人ひとりが“今”の自分を見つめ、できることを考えているからこそ、表れている姿なのだと感じます。

“はばたき”という学年名にもつながる「はばたく」という言葉。鳥が羽ばたかせ飛び上がろうとする、まさに「はばたく」様子からできた漢字があります。鳥を表す“隹(ふるとり)”に“羽”と書く、「翟」(テキ)という漢字です。そして、これに「足」をつけると、「躍」という漢字になります。“飛躍”などの時に使われ、足で地面を力強く蹴って空に舞い上がろうとする様子にも使われる漢字です。この3カ月の“はばたき”の子どもはきっと“躍”という字の意味する勢いよく飛び上がる準備をしてきたのだろーうと思います。5年生という学校での立場、学級での自分の立場など、いろんな側面から“自分”を見つめ、“自分”がどうあるべきか、“自分”はどうしていくべきかを考えて行動してきたのではないのでしょうか。みんなが気持ちよく生活するために“自分”はどうしたらいいのか、グル活で先輩である“自分”は4年生にどんなことができるのか、〇〇委員会として“自分”にできることは何か。そのように“自ら”を見つめてきたはばたきの子たちが、随所で見られた3カ月間でした。

“自分”を見つめることは、「自らをきりひらく」ためにはとても重要な要素になります。そして、見つめた先には、学級の仲間や静岡小にいるみんなという他者の存在もあることに気が付き始めています。飛ぶためにしゃがみ、力を込めてきたこの3カ月の経験はきっと、夏休み明けの学校生活において大きな“飛躍”として、必ず開花すると信じてやみません。ただ、“飛躍”のためには力をずっと溜め続けているだけではうまくいきません。この夏休みは大きな飛躍をするために「心と体の休息」の期間でもあります。ぜひ、十分な休息とともに、ご家庭でしかできない貴重な経験を積んでいただければ幸いです。夏休み明けも、私たち5年部職員一同、“はばたき”の子どもが“飛躍”できるよう精一杯サポートしていきます。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

